

2025年
10月4日(土)
15時~18時15分

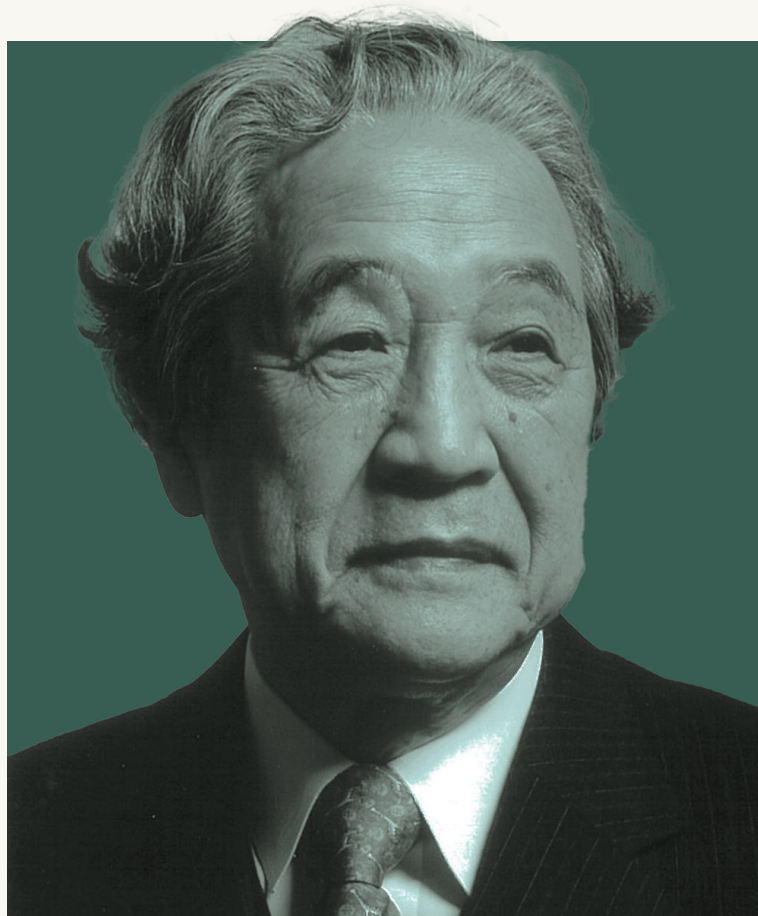
開場14時30分

「第一回」
梅原猛
フォーラム
Umehara Takeshi Forum

京都大学芝蘭会館
稲盛ホール
京都市左京区吉田近衛町

①スピーチ
「梅原仏教学と私」
しんめいP
著述家、東洋哲学愛好家

②記念公演
「はじまりの梅原猛」
日下部 吉信
立命館大学名誉教授



③座談会

奥野克巳 立教大学教授 長谷川祐子 キュレーター、京都大学経営管理大学院客員教授
福岡伸一 青山学院大学教授 山極壽一 総合地球環境学研究所所長
鷺田清一 大阪大学・京都市立芸術大学名誉教授 梅原賢一郎 梅原記念財団代表理事
小西賢吾 京都大学人と社会の未来研究院特定准教授※モデレーター

梅原猛

を継ぐ「人類哲学」
とは何か

独創的な「梅原日本学」を築き、「人類哲学」の必要性を提唱して逝去した哲学者・梅原猛。その哲学の「はじまり」と「これから」を展望し、生誕100年を機に創設される「梅原猛人類哲学賞」のめざすものを語り合います。

主催：梅原記念財団
Umehara Memorial Foundation

共催：京都新聞

参加者
募集中

参加無料

オンライン参加も可

梅原猛を継ぐ

「人類哲学」とは何か

参加応募方法(参加無料)

【申し込み締切】 9月17日(水)必着

●会場参加(定員230名)と同時配信オンライン参加(定員なし)があります。会場参加は応募多数の場合抽選。当選されなかった場合はオンライン視聴方法をご連絡します。

●参加ご希望の方は、インターネットまたはハガキにてお申し込み下さい。

○同時に2名様まで申し込みが可能です。

○インターネットの場合は下記の二次元コードやURLから「申し込みフォーム」で

○ハガキの場合は以下を記入のうえ下記の事務局まで

※2名の場合は2名分の必要事項を記載

- ・参加方法(「会場参加」または「オンライン参加」)
- ・郵便番号・住所・氏名・年齢・電話番号・メールアドレス
- ・今後、梅原記念財団から催事等のメール案内を「希望する」または「希望しない」

●会場参加可否やオンライン視聴方法は、9月18日以降、メールかハガキでご連絡します。

申し込み/問合せ先

「梅原猛フォーラム」事務局

〒604-8567京都市中京区烏丸通夷川上ル
京都新聞COM営業局

TEL | 075-241-6172(平日10~17時)
Email | keikaku@mb.kyoto-np.co.jp

申し込みフォーム ⇒ https://kyoto-np.jp/_J1hTInU

※いただいた個人情報は、京都新聞COMおよび一般財団法人梅原記念財団で管理し、応募受付の管理、本事業に関する連絡のほか、ご希望された方への梅原記念財団からの催事等のご案内にのみ利用します。

梅原猛 1925-2019 Takeshi Umehara

哲学者。宮城県生まれ。京都大学文学部哲学科卒。立命館大学教授、京都市立芸術大学学長を経て、国際日本文化研究センターの創設に尽力し初代所長に。1999年、文化勲章を受章。縄文時代から近代までを視野に収め、文学・歴史・宗教等を包括し日本文化の深層を解明する営為が「梅原日本学」と呼ばれる。著書に『地獄の思想』『隠された十字架―法隆寺論』『水底の歌―柿本人麻呂論』『日本の深層―縄文・蝦夷文化を探る』『世阿弥の神秘』『人類哲学序説』『親鸞「四つの謎」を解く』など。1986年初演のスーパー歌舞伎「ヤマトタケル」はじめ、新たな歌舞伎・能・狂言の戯曲等も手掛け、日本ペンクラブ会長を務めた。

梅原記念財団 Umehara Memorial Foundation

住所 〒606-8444 京都市左京区若王子町4

Web <https://umehara-memorial-foundation.jp/>

1962年、滋賀県生まれ。一橋大学大学院社会学研究科博士後期課程修了。ボルネオの狩猟採集民ブナンを調査研究。著書に『モノも石も死者も生きている世界の民から人類学者が考えたこと』『はじめての人類学』『ひっくり返す人類学』『今日のアニミズム(共著)』等。



奥野克己
立命館大学教授
文化人類学

1946年、京都府生まれ。梅原猛に師事し立命館大学・同大学院で哲学を学ぶ。ソクラテス、プラトン以前の初期ギリシア哲学に注目し「存在と主観性の葛藤は現在も続く」と説く近著『ギリシア哲学30講 人類の原初の思索から(上下巻)』ほか著書多数。



日下部吉信
立命館大学名誉教授
哲学

1980年、兵庫県出身。京都大学大学院人間・環境学研究科博士課程研究指導認定退学。金沢星稜大学准教授を経て現職。「縁と集合的身体の人類学」をテーマに日本とチベットで研究。著書に『四川チベットの宗教と地域社会』『比較文化学への誘い(共編著)』等。



小西賢吾
京都大学人文学部
研究科特定准教授、文化人類学

1988年、大阪府生まれ。東京大学法学部卒。大手IT企業を経て地方で教育事業に取り組むも撤退。引き籠り中に東洋哲学の本を読み、綴ったブログ記事が注目され『自分とか、ないから 教養としての東洋哲学』として2024年に出版。20万部のベストセラーに。



しんめいP
著述家
東洋哲学愛好家

京都大学法学部卒、東京藝術大学美術学部芸術学科卒、同大学院美術研究科修士課程修了。『ジャパノラマ:日本の現代アートの新しいヴィジョン』ほか国内外で様々な展覧会、ビエンナーレを企画。金沢21世紀美術館の創設に携わり2025年3月まで館長を務めた。



長谷川祐子
キュレーター、京都大学
経営管理大学院客員教授

京都大学卒。ロックフェラー大学客員教授。大阪・関西万博(EXPO 2025)テーマ事業「いのちを知る」プロデューサー。著書に『生物と無生物のあいだ』『動の平衡』シリーズ等。梅原猛も含めた対談集『エッジエフェクト』がある。



福岡伸一
青山学院大学教授
生物学

1952年、東京生まれ。京都大学卒。京都大学教授、総長を経て現職。ゴリラをはじめ霊長類の考察から人間社会の由来と未来を探る。著書に『家族の起源』『サル化』する人間社会』『共感革命―社交する人類の進化と未来』『争いばかりの人間たちへ ゴリラの国から』等。



山極壽一
総合地球環境学研究所所長
人類学

1949年、京都市生まれ。京都大学卒。大阪大学総長、京都市立芸術大学学長などを歴任。「臨床哲学」の観点から身体、言葉、アート、ケアなどを論じる。著書に『モードの迷宮』『「聴く」ことの力』『哲学の使い方』『所有論』等。朝日新聞に「折々のことば」連載中。



鷺田清一
大阪大学京都市立芸術大学
名誉教授、哲学

京都市生まれ。京都大学大学院文学研究科博士課程修了。京都芸術大学名誉教授。主な著作に『カミの現象学―身体から見た日本文化論―』『感覚のレッスン』『肉彩』『洗濯屋さん道元』、編著作に『不在の空―いま、ここ』を生きた女性の肖像―』がある。



梅原賢一郎
梅原記念財団代表理事